

「親子で仲良く！アドベンチャーキッズ」事業報告書

企画指導専門職 三枝 ひとみ

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 登山体験や運動プログラムを通して、幼児の体力の向上を図り、豊かな感性を育てる。親子での登山体験を通して、保護者に体験活動の大切さを知らせるとともに、親子のコミュニケーションを深める機会とする。
- (2) 期 日 平成 28 年 11 月 19 日(土)～20 日(日) 1泊2日
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家、大分県立九重青少年の家
- (4) 参加者 幼児とその保護者 23 名(定員 30 名、応募者 116 名)
(保護者 10 名、小学 1 年生 2 名、幼児 11 名)
- (5) 講 師 研修指導員 薄井良文 氏
Pilates Studio ラパン 原部 静子 氏
- (6) 担当職員 三枝 ひとみ(企画指導専門職) 小宮 広明(企画指導専門職)
寺島 しほ(事務補佐員) 古閑 仁美(事務補佐員)
- (7) 内 容 【1日目】沓掛山登山、レクリエーション、ピラティス(保護者)、忍者遊び(子供)
【2日目】「みんなの広場」に自由参加

2 成果と課題

(1) 成 果

- 「思ったよりも高い山に登ることができ、子供も達成感を感じていた。」「子供にとっても、登山初心者の親にとってもいい経験になった。」等の感想から、登山という困難な体験が幼児に達成感を与えることや、幼児期の体験活動の大切さなどを保護者に感じてもらうことができた。また、「子供に登れるか不安だったが、自分の足でちゃんと歩いていて成長を感じた。」「家族だけでもまた行ってみようと思う。」等の感想もあり、親子での活動を通して、家族のコミュニケーションを深める機会になったことが伺えた。事業後のアンケートでは、100%の満足度を得ることができた。
- 余裕をもった時間設定や、親子分かれて行うプログラムにより、子供だけでなく保護者も活動を楽しむ様子が見られた。
- 研修指導員や関係機関との打ち合わせを十分に行うことで、天候の変化に応じたプログラムが実施でき参加者の満足してもらえた。
- 子供たちの夜の活動の進行をボランティアに任せたことで、ボランティアの子供への接し方や進行の仕方などのスキルアップを図る機会となった。

(2) 課 題

- 登山など所外での活動の際は、ボランティアとの打ち合わせの時間を十分にとる必要がある。
- 熊本市内からのボランティアの送迎については、職員の負担が大きくなるような方法を考えていく必要がある。
- 雨天時の活動場所として、九重青少年の家を利用させてもらうことができた。今後もくじゅう方面での活動の際には連携していきたい。

3 事業の様子



準備運動



いよいよ出発



山頂に向かって



集合写真



九重青少年の家でレクリエーション



筋湯温泉でゆっくり



ピラティス(保護者)



忍者遊び(子ども)